

1989年1月15日(日曜日)

【総 合】

(3) 8版

中国 勝共連合トップを招待

国際ハイウェイ構想 視察名目に

元号法制化で中心的な役割を果たす一方、改憲運動や国家機密法促進の活動を展開する反共右翼団体、国際勝共連合の最高幹部が昨年、中国側に招かれ訪中していたことが、十四日まで明らかにになりました。中国共産党は近年「脱イデオロギー外交」と称して政府・自民党を重視する対日姿勢をとってきています

訪中したのには国際勝共連合の梶栗玄太郎理事長、同連合系文化人団体の世界平和教授アカデミーの太田洪量事務局長ら六人。昨年七月二十三日から九日間にあたり北京、大連など中国各地を訪れました。

建設事業団(梶栗玄太郎理事長)の訪中団という形をと

り、中国国際友好連絡会の招きによるもの。事業団が構想するアジアハイウェイのルートとなる中国東北部の道路視察という名目で、中国滞在

中、梶栗理事長らにたいし、中国側は王震国家副主席、銭永昌交通部長(閣僚)らが会

見しました。梶栗理事長は久保木修己会長(日本統一協会会長)に次ぐ

国際ハイウェイ建設・プロジェクト 統一協会教祖・文鮮明が東洋と西洋の諸国を巡

結し、地上天国を実現すると

訪中は勝共連合が全面バックアップする国際ハイウェイ

建設事業団(梶栗玄太郎理事長)の訪中団という形をと

り、中国国際友好連絡会の招きによるもの。事業団が構想するアジアハイウェイのル

ートとなる中国東北部の道路視察という名目で、中国滞在

中、梶栗理事長らにたいし、中国側は王震国家副主席、銭永昌交通部長(閣僚)らが会

見しました。梶栗理事長は久保木修己会長(日本統一協会会長)に次ぐ

国際ハイウェイ建設・プロジェクト 統一協会教祖・文鮮明が東洋と西洋の諸国を巡

結し、地上天国を実現すると



中国訪問を伝える国際勝共連合系の国際ハイウェイ建設事業団の新聞